

新潟本社行動計画の取り組み状況について



2018年6月25日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

目次

1. 安全性向上の取り組み
 - ・ 出雲崎災害対策支援拠点の整備 **NEW**
2. 運営体制の構築の取り組み
3. 防災支援の取り組み
 - ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員14名が常駐
 - ② 緊急時の初動体制
4. 地域貢献の取り組み
 - ① 「大地の芸術祭」への協力 **NEW**
 - ② 地域行事への参加
5. 傾聴と対話の取り組み
 - ① 各戸訪問
 - ② 東京電力コミュニケーションブース **update**
 - ③ 地域の皆さまへの説明会
 - ④ トークサロン
 - ⑤ 発電所視察対応
 - ⑥ 広告

1. 安全性向上の取り組み

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 1 F 事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 1 F 事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



<止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



1. 安全性向上の取り組み

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

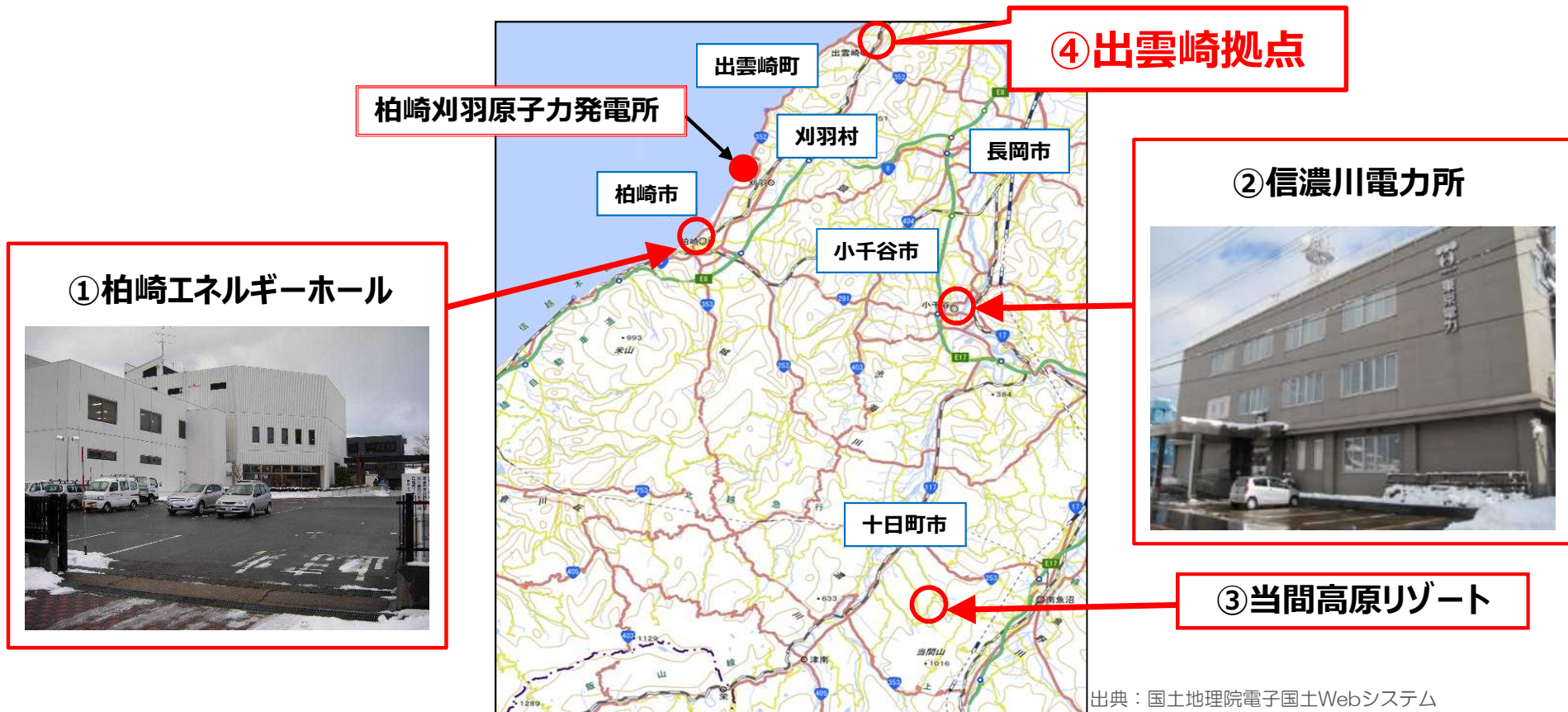
- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能な「新除熱システム」を開発し設置
審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



1. 安全性向上の取り組み

＜出雲崎災害対策支援拠点の整備＞ ※詳細は資料2参照

- 原子力発電所での事故の事故収束活動の支援拠点として、これまでに柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾートの3拠点を整備
- 上記に加え、発電所から北東方向の出雲崎町にも支援拠点を整備し、多重化することで、支援活動の強化を図る（整備完了目標は2020年1月頃を予定）



1. 安全性向上の取り組み

<参考：現在の災害対策支援拠点の整備状況>

| 項目 | 柏崎エネルギーホール | 信濃川電力所 | 当間高原リゾート |
|-------------|---|---|---|
| 所在地 | 柏崎市駅前2-2-30 | 小千谷市千谷川1-5-10 | 十日町市珠川 |
| 発電所からの方位、距離 | 南南西 約8 km | 南東 約23 km | 南南東 約44 km |
| 敷地面積 | 約3,000㎡ | 約3,800㎡ | 約350万㎡ |
| 非常用電源 | 非常用ディーゼル発電機 50kVA | 非常用ディーゼル発電機 75kVA | 非常用ディーゼル発電機 本館：300kVA 新別館：210kVA |
| 非常用通信機器 | <ul style="list-style-type: none"> 電話（地上系、衛星系） FAX（地上系） | <ul style="list-style-type: none"> 電話（地上系、衛星系） FAX（地上系） | <ul style="list-style-type: none"> 電話（地上系、衛星系） |
| その他 | 消耗品等（食料、飲料水等）は信濃川電力所備蓄品を搬入 | 消耗品等（食料、飲料水等）は備蓄 | 休憩・仮泊、資機材置き場機能のみ |

2. 運営体制の構築の取り組み

概要

- 新潟本社の設置
- 原子力事業の社内カンパニー化を予定
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

- 2015年4月新潟本社設立
 - 柏崎刈羽地域での説明会や県内全域における対面でのご説明
 - 柏崎刈羽原子力発電所などの当社施設の見学機会の拡大・強化
 - 関係自治体等とご相談し、原子力防災の充実や実効性ある避難支援策の策定に向けた検討・実施
 - 行動計画の活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設。フリーアドレスを導入し、社員が車座になって議論を進めながら、新潟県内の地域対応等を強化
- 3つの検証へのご協力
 - 新潟県技術委員会へのご説明33回（発電所視察含む）
 - 福島事故検証課題別ディスカッションへのご説明33回

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



3. 防災支援の取り組み ① 柏崎市内に防災・避難支援専門要員14名が常駐

- 2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を、現在の新潟市内から、柏崎市内に開設する「まもる・そなえる・こたえる」オフィスへ移転し、防災や避難支援業務を専門とする社員14名が常駐

「避難支援チーム」の活動の本拠を柏崎市内へ移転

「まもる・そなえる・こたえる」オフィス（柏崎市内）



2018年4月に「避難支援チーム」の活動の本拠を新潟市内から柏崎市内に移転

新潟本部
(新潟市内)

UPZ (30km圏内)

柏崎刈羽原子力発電所

◎PAZ (5km圏内)

◎カサハセンター

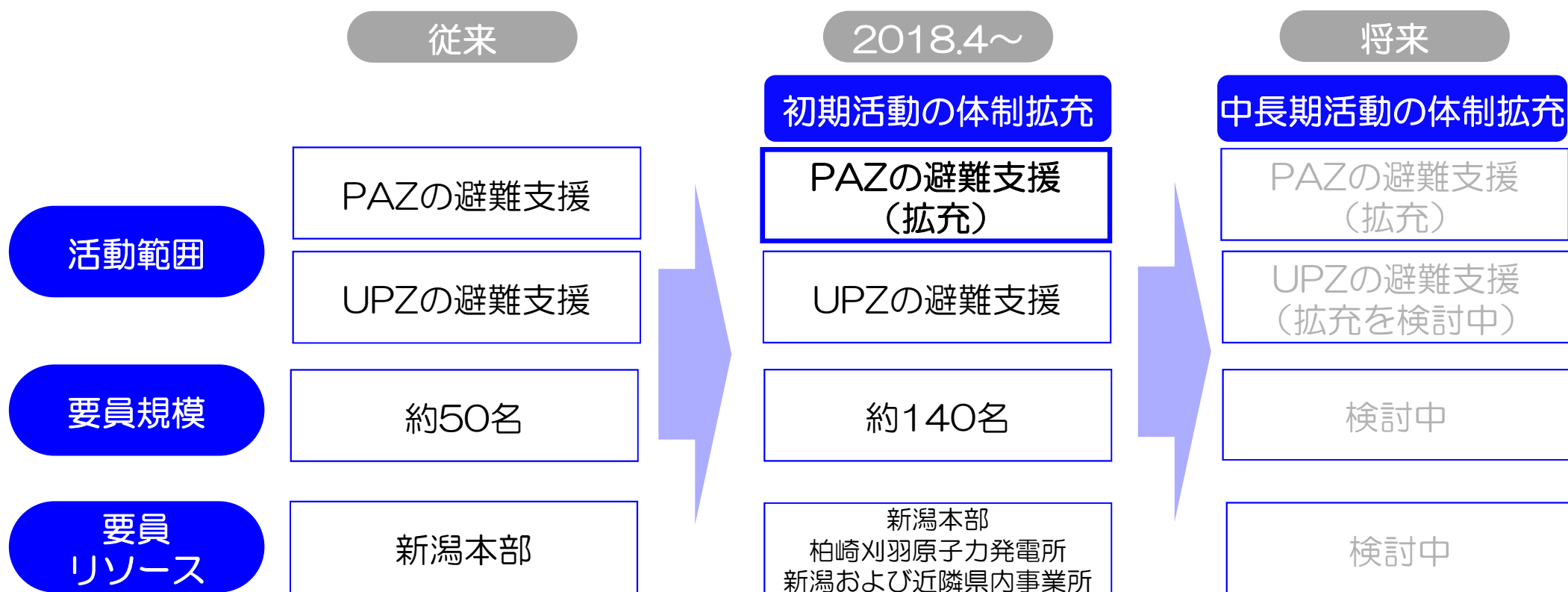
14名が常駐(2018年4月～)



3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動体制

- 2016年10月より、新潟本部の社員約50名を初動要員とする体制で運用を開始した「避難支援チーム」について、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

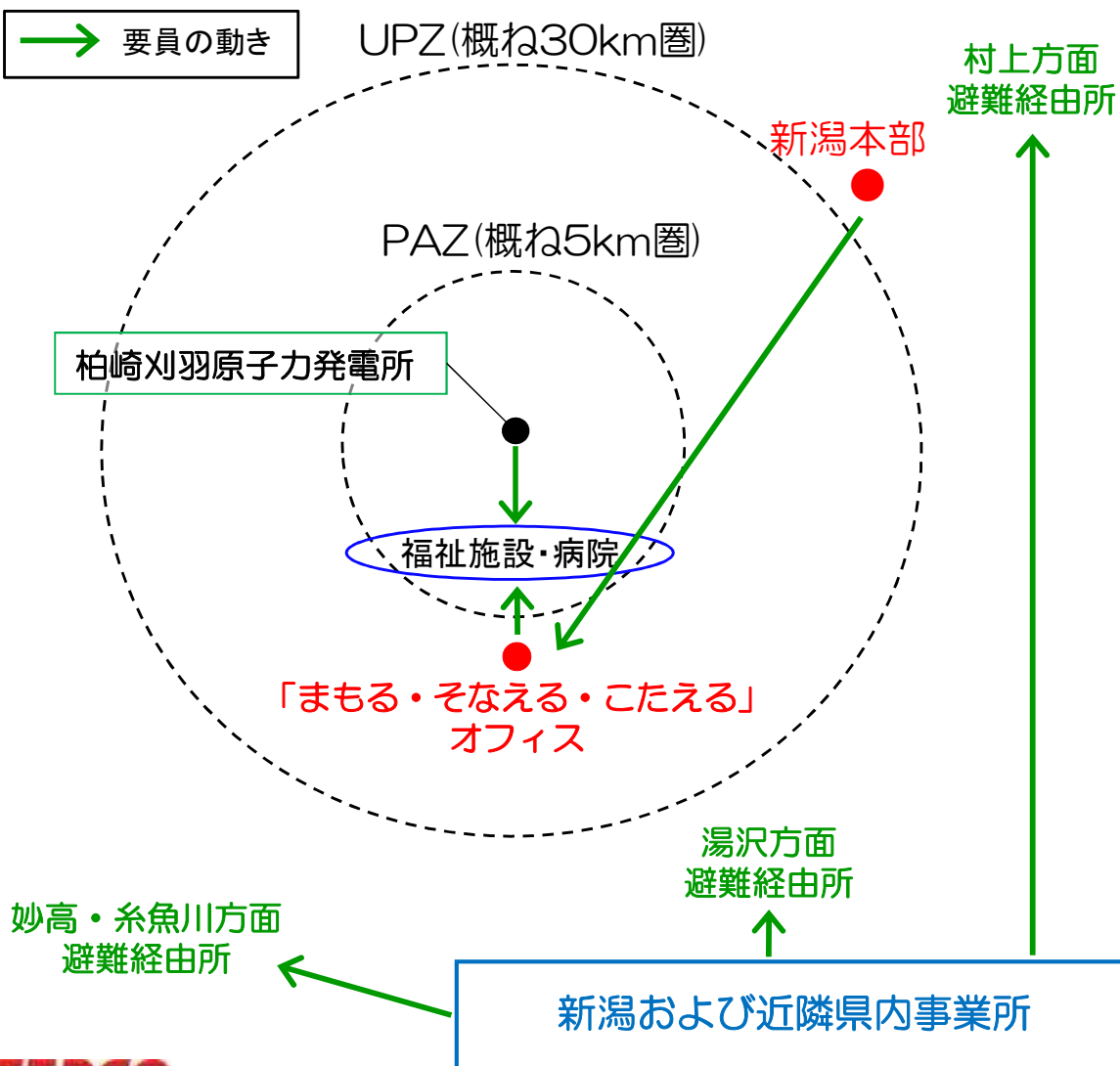
「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ② 緊急時の初動体制

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現



| | 活動内容 | 要員 リソース |
|------|--|-------------------------|
| 初期活動 | ①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助) | 新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所 |
| | ②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給) | |
| | ③PAZ避難経由所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導) | 新潟および 近隣県内 事業所 |

4. 地域貢献の取り組み ① 「大地の芸術祭」への協力

- 現代アートの祭典「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」における信濃川水の路プロジェクト（「サイフォン導水のモニュメント」）に協力。
- 具体的には、信濃川発電所の導水路土地の提供、現地での設備概要説明（日時調整中）、信濃川発電所の見学対応（日時調整中）等。
- 「大地の芸術祭」は、豪雪地・越後妻有（新潟県十日町市、津南町）を舞台に、2000年から3年に1度開催されている世界最大級の国際芸術祭。
- 開催概要は以下の通り。
 - ・ 会 期：2018年7月29日（日）～9月17日（月・祝） 51日間
 - ・ 開催地：越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）760km²
 - ・ 主 催：大地の芸術祭実行委員会



パンフレット



モニュメントの
イメージ画像

信濃川 水の路プロジェクト

- 信濃川発電所が現代アートに。
- アーティスト磯辺行久氏が18年の歳月をかけ越後の過酷な地形・気候・風土を可視化。
- 信濃川に生き、生かされる日々の営みを表現。
- アートプロジェクト5つめの渾身作。

（「大地の芸術祭」パンフレットより）

4. 地域貢献の取り組み ② 地域行事への参加

○青海川海岸清掃（2018/4/21）

- ・作業内容：海岸清掃
- ・参加者：柏崎刈羽原子力発電所 計 5名

○信濃川河岸段丘ウオーク（2018/4/29）

- ・作業内容：イベントのお手伝い
- ・参加者：信濃川電力所 計 4名

○魚沼こども元気フェスティバル（2018/5/12）

- ・作業内容：イベントのお手伝い
- ・参加者：信濃川電力所 計 2名

信濃川河岸段丘ウオーク



○柏崎潮風マラソン（2018/5/20）

- ・作業内容：受付・交通整理・給水係・撤収作業
- ・参加者：柏崎刈羽原子力発電所 計 20名

○西山町美石地クリーンデー（2018/6/9）

- ・作業内容：海岸・砂浜清掃
- ・参加者：柏崎刈羽原子力発電所 計 33名

○えんま市会場早朝清掃（2018/6/15～16）

- ・作業内容：会場清掃
- ・参加者：柏崎刈羽原子力発電所 計 44名

○えんま市付き添いボランティア（2018/6/15）

- ・作業内容：特別養護老人ホーム入居者の買い物お手伝い
- ・参加者：柏崎刈羽原子力発電所 計 3名

えんま市会場早朝清掃



5. 傾聴と対話の取り組み ① 各戸訪問

- 新潟本社の社員が柏崎市、刈羽村の皆さまのご家庭を戸別に訪問させていただき、ご意見やご要望を直接お伺いするとともに、発電所視察のご案内や安全対策等の取り組みをご説明する活動を実施しました。

訪問実績

- 第1回目 2015年6月～9月
- 第2回目 2016年5月～9月
- 第3回目 2017年5月～9月

訪問先

- 柏崎市と刈羽村にお住まいの皆さま
- 約41,000軒を訪問

(参考：訪問時の配布資料イメージ)



5. 傾聴と対話の取り組み ② 東京電力コミュニケーションブース

実施内容

- 上越・中越・下越地域・柏崎市・刈羽村それぞれに「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、皆さまからのご意見をお伺いするとともに、6・7号機の原子炉設置変更許可に関するご説明を実施しております。また、パネル展示等を通じて発電所で講じている安全対策や放射線など原子力発電全般に関する質問にお答えするとともに、さまざまな「声」をお聴きしております。

<開催実績>

- 上越市 (8回)
- 長岡市 (5回)
- 新潟市 (6回)
- 小千谷市 (1回)
- 見附市 (2回)
- 新発田市 (1回)
- 南魚沼市 (1回)
- 燕市 (1回)
- 村上市 (1回)
- 五泉市 (1回)
- 出雲崎町 (1回)
- 佐渡市 (1回)
- 柏崎市 (14回)
- 刈羽村 (5回)



(*)2018年6月19日 現在

5. 傾聴と対話の取り組み ② 東京電力コミュニケーションブース

- コミュニケーションブースではパネルや模型の展示を通して、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等に対するご質問にお答えしております。また、VR（バーチャルリアリティ）を活用して、臨場感ある映像で発電所にいるような体験もしていただいております。
- これまでに48回開催し、累計8,681人の方にお越しいただき、多くの「声」をお聴きしました。

コミュニケーションブースでの様子

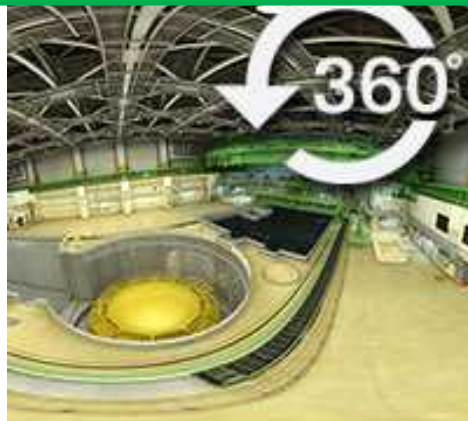


2018.6.14~6.17 五泉ブース



2018.6.16~6.18 佐渡ブース

発電所俯瞰・原子炉建屋内部・消防ポンプ車等をご紹介するVR



- 2018年度に開催した東京電力コミュニケーションブース（柏崎市、刈羽村、村上市、上越市、出雲崎町、五泉市、佐渡市）において、さまざまな「声」をいただきました。

原子力発電に関するご意見

- 想定外の事故で放射性物質が放出されることが心配なので、原子力は反対。
- 安全対策がしっかりしていれば再稼働してよい。
- 原子力発電の必要性は理解できるが、福島事故のことを考えると複雑。

エネルギー事情に関するご意見

- 日本の産業形態を変えて消費電力を減らし、再生可能エネルギーを使うべき。
- エネルギー事情は理解するが、子供のことを考えると原子力は不要。
- エネルギーに乏しい日本には原子力は必要で、再稼働を望んでいる人も多い。

その他のご意見

- 事故時、トラブルなどの情報をしっかり開示してもらいたい。
- 万が一、冬季に事故が起きた場合、避難が確実にできるか不安。

5. 傾聴と対話の取り組み ③ 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

開催実績（新潟本社設立以降）

| 日時 | 場所 | 参加者数 |
|------------|-----------------|------|
| 2015/6/8 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 64名 |
| 2015/6/9 | 柏崎市産業文化会館 | 128名 |
| 2015/12/21 | 柏崎市産業文化会館 | 128名 |
| 2015/12/22 | 刈羽村農村環境改善センター | 44名 |
| 2016/9/13 | 柏崎市市民プラザ | 79名 |
| 2016/9/14 | 刈羽村 高町地区集会場 | 24名 |
| 2018/1/30 | 柏崎市産業文化会館 | 98名 |
| 2018/1/31 | 刈羽村生涯学習センター ラピカ | 52名 |



5. 傾聴と対話の取り組み ④ トークサロン

- 柏崎刈羽原子力発電所の立地地域にお住まいの女性や子育てをされている方々を対象として、年間を通してトークサロンやカルチャー教室を実施しております。
- 発電所の取り組みをお伝えするとともに、立地地域の皆さまと新潟本社職員との対話活動を実施しております。

開催実績（2018年度）

| 時期 | 場所 | 主な内容 | 参加者数 |
|--------|--------------|----------|------|
| 2018.4 | ・ 柏崎市市民プラザ | ・ トークサロン | 45名 |
| 2018.5 | ・ 柏崎エネルギーホール | ・ トークサロン | 47名 |



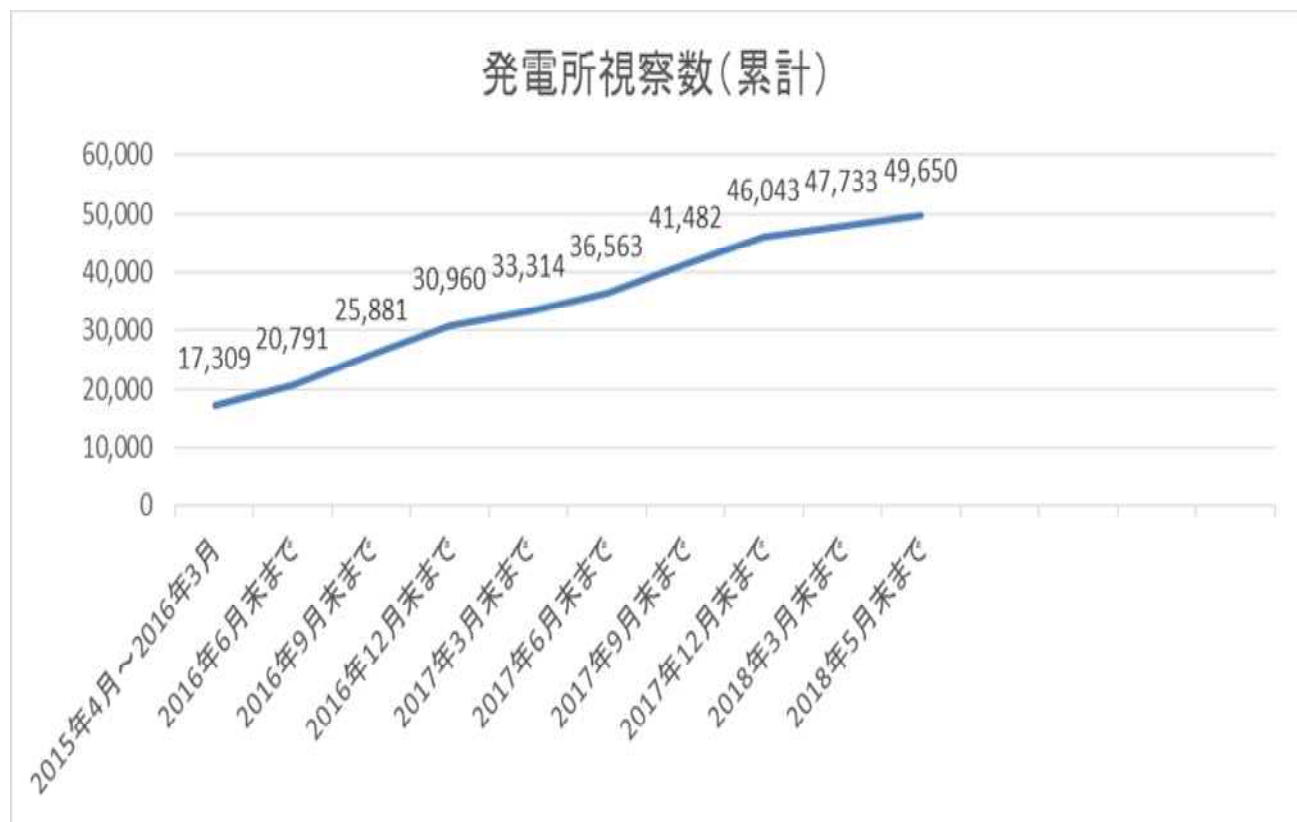
トークサロン



カルチャー教室

5. 傾聴と対話の取り組み ⑤ 発電所視察対応

- 新潟県内をはじめ、より多くの皆さまに福島第一原子力発電所の事故を踏まえた安全対策をご覧いただくため、柏崎刈羽原子力発電所をご視察いただいております。



【防潮堤（5～7号機側）】



【電源車】



5. 傾聴と対話の取り組み ⑥ 広告

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施しております。

- トラブルを含む情報の発信ツールとして、「東京電力通信」を発行。
- 新潟県内の民放各局、ラジオ各局において柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の状況をお伝えするTVCMやラジオCMの放送を実施。
- 発電所で働く所員の思いや決意を伝える広告を新潟県内限定で雑誌広告、新聞広告に展開。



<雑誌広告>

<2018年2月 発行「東京電力通信」>